

河川2 戦後の吉野川改修工事(徳島県)

資料名	ストック効果に関する記述
建設省四国地方建設局徳島工事事務所編「徳島工五十年史」(建設省四国地方建設局徳島工事事務所、1998年)、112頁	<p>吉野川河川環境整備事業 (中略)</p> <p>河道整備事業は、昭和45年度から本川右岸2K/3～4K/3において、徳島市民の運動広場を中心とした徳島市の実施する南岸河川敷運動公園事業のための高水敷整正、低水護岸を実施し、昭和62年度に完了した。続いて、昭和57年度から徳島市応神地区で吉野川北岸河川敷運動公園のための高水護岸を実施し、昭和63年度に完了した。また、吉野川上流の貞光地区では平成元年度から、吉野川河川敷公園のための低水護岸、高水護岸緑化等を実施している。河川公園の利用状況としては、市民運動公園として四季を問わず一年中利用されており、昭和54年10月から阿波吉野川マラソン大会および昭和58年から四国の川を考える会主催ファミリーハゼ釣り大会などが開催される状況で、年々盛況になっており、徳島市民はもちろん県民の健康づくりの場として大いに役立っている。</p>
上板町史編纂委員会編「上板町史 下巻」(上板町、1985年)、675頁	<p>吉野川の洪水調節計画 (中略)</p> <p>建設省では、柳瀬ダムのほかに本川上流部にさらに洪水調節用のダム築造の必要性を認め、吉野川総合開発計画と組み合わせ、ここに多目的の早明浦ダムの建設が計画された。こうして早明浦ダムは昭和四十年(一九六五)に着工され、四十八年十一月十日に完成、「四国の水がめ」として四県に給水、洪水調節、発電などに大きな役割を果たすことになった。</p> <p>吉野川は、阿波町岩津地点における最高流量を一万七、五〇〇立方メートル／秒とし、このうち二、五〇〇立方メートル／秒は上流ダムによって調節し、河道の流量は一万五、〇〇〇立方メートル／秒とされた。こうした改修と洪水調節によって、吉野川は理論上八十年に一度襲来すると想定される特別大洪水に対しても、その安全性が十分に確保されることになった。</p> <p>下流流域住民の長い夢は、いまは現実の姿となって、吉野川の治水・利水は完璧のものになるとうしている。人びとの長い苦闘の歴史と、はかり知れない犠牲の上に、吉野川はいま「母なる川」へ変貌した。</p>
川島町史編集委員会編「川島町史 下巻」(川島町、1982年)、960-962頁	<p>岩の鼻浜築堤 (中略)</p> <p>吉野川第二期改修工事で、昭和三十三年には吉野川堤防全線にわたって補強・補修工事が完成し、川島町、学島村地域でも、岩の鼻浜地区の特殊堤防を除いて完成していたのであるが、いよいよ県・町および関係住民の熱望と努力の効あったのか、昭和四十一年八月二十二日建設省の直営工事で着工、岩の鼻浜の特殊堤による圍繞堤のみでほとんど無堤灯に等しい部分に対する築堤工事が、国費七、九〇〇万円を投じて開始され、翌昭和四十三年三月二十五日完成、竣工式をあげたのである。こうして吉野川右岸たった一か所のみ残されていた岩の鼻浜特殊堤も新しい堤防となり、関係住民は安眠することができるようになったわけで、この堤防に立つ者、戦後における関係住民の大きな生命の喜びを感じることであろう。</p>

河川2 戦後の吉野川改修工事(徳島県)

資料名	ストック効果に関する記述
川島町史編集委員会編「川島町史 下巻」(川島町、1982年)、969頁	<p>桑村川・学島川内水排除工事 (中略)</p> <p>思えば、川島町民の多くは、先祖代々吉野川の大洪水、桑村川・学島川の溢水に悩まされつづけてきた。それは川島町民の運命でもあった。茨の道でもあった。しかしようやく吉野川堤防完備し、さらに桑野川・学島川の内水排除にも成功、もはや洪水溢水の憂いはなくなった。川島町の低地帯が一面の泥海化する惨状はなくなった。吉野川の堤防成り、内水溢流の憂もない他の吉野川沿岸町村に較べて、四十年の後にようやく水害の懸念から脱し得たと計算して喜ぶ人もあるが、ともかく枕を高くして安眠できることは事実であろう。目に見る幸福といってよい。水は人間生活に必須不可欠であり、水の乏しいアフリカ大陸の生活を思えば慄然とするが、半面また大きな災害をもたらす。川島町民は長い間その災害に耐えてきたが、それもようやく取り除くを得て、幸福に心するを得たのである。吉野川の大堤防に立って四顧すれば、この感慨深いものあるであろう。</p>
新編三野町史編纂委員会編「新編 三野町史」(三野町、2005年)、1126-1128頁	<p>太刀野地区の築堤工事 (中略)</p> <p>平成十六年七月三十一日の台風一〇号、八月三十日の台風一二号は昭和二十九年九月十四日の台風一二号による大洪水(岩津地点で一万五〇〇〇立方メートル/秒)や昭和四十九年九月九日の台風一八号の大洪水(岩津地点で一万四四七〇立方メートル/秒)に並ぶ最近では希有な一万二〇〇〇立方メートル/秒を記録し、無堤防時代には甚大な被害に襲われていたはずの太刀野地区は内水被害があった程度で被害は極小に終わり、築堤の威力に驚嘆感謝する。</p>

河川2 戦後の吉野川改修工事(徳島県)

資料名	ストック効果に関する記述
<p>国土交通省四国地方整備局編「吉野川水系穴吹川箇所河川改修事業(事後評価)」(平成18年度第2回事業評価監視委員会資料、2007年)、14-17頁</p>	<p>穴吹箇所・穴吹川箇所河川改修事業</p> <p>1)治水効果 戦後最大を記録した、平成16年10月台風23号洪水をはじめとして、平成16年～17年においては、大規模な洪水が5回発生した。 本事業箇所の堤防が完成していない場合、(中略)事業効果見込額の197億円に対して、わずか2年で約78億円(約40%)の効果を発現している。 穴吹川地区の事業完成により、吉野川本川からの背水等による外水浸水被害の危険性が軽減され、戦後最大規模となった平成16年10月の台風23号においても、外水による家屋浸水被害は発生しなかった。</p> <p>2)住環境への効果</p> <p>①堤内地利用 S50・H15航空写真の比較により、土地開発が進んでいる様子がうかがえ、今後更なる土地の利用促進が期待される。 当該事業箇所である、穴吹川流域については、美馬市(旧穴吹町)「穴吹町総合計画」基本計画の中で「観光交流・レクリエーションゾーン」として位置づけられ、「穴吹川筏下り大会」が毎年開催されるなど、穴吹川を活用したイベントが催されている。また、住民の憩いの場や交流客誘致観光拠点として、地域の活性化に寄与している。</p> <p>②道路交通網 ・道路 当該事業により、洪水時における地域の浸水被害が解消され、土地開発が進んでいる様子が伺え、今後、更なる土地の利用促進が期待される。また、県西部の主要交通網である国道192号の冠水解消に加え、関連事業である穴吹橋等の整備により、高速道路へのアクセス性が向上し、地域のアクセスポイントとして、今後より重要な役割を果たすものと考えられる。</p>
<p>国土交通省四国地方整備局編「吉野川水系川田川箇所環境整備事業(事後評価)」(平成18年度第2回事業評価監視委員会資料、2007年)、8頁</p>	<p>水辺の楽校「山川バンブーパーク」事業</p> <p>バンブーパークは、徳島自動車道脇町ICから車で約15分、最寄りのJR徳島線阿波山川駅から徒歩約20分の位置に立地し、毎日の健康づくりの場、地域の人々の交流の場、家族や友達との触れ合いの場、デイサービスによる在宅老人のリフレッシュのための場として、多くの利用者が訪れている。週末には、吉野川市外からもたくさんの方が訪れ、自然や人との「ふれあい」を楽しんでいる。(平成14年7月～平成18年6月の累積利用者数は224,182人、年平均利用者数は56,046人)</p>

河川2 戦後の吉野川改修工事(徳島県)

資料名	ストック効果に関する記述
<p>国土交通省四国地方整備局編「吉野川直轄河川改修事業(市場箇所)(事後評価)」(平成19年度第2回事業評価監視委員会資料、2007年)、14-15頁、22頁</p>	<p>市場箇所(鶯谷地区、柿ノ木地区、指谷地区)の内水対策事業 (1)吉野川の内水処理計画 (中略) 市場箇所における一連の内水対策事業実施前の安全度は1/5であったが、一連の内水対策事業の実施により、内水の安全度が1/10に向上し、1/10の降雨に対して床上浸水の発生を防ぐことが可能となった。 (2)治水効果 平成16年8月31日洪水(台風16号)と平成16年10月20日洪水(台風23号)によって、一連の内水対策事業の治水効果をシミュレーションにより検証した。 事業実施前に洪水が発生した場合、平成16年8月洪水については、浸水範囲が約40ha大きくなり、床下浸水となる家屋が3戸発生すると推定される。 事業実施前に洪水が発生した場合、平成16年10月洪水については、浸水深は0.1~0.6m上がり、床上浸水家屋が約50戸増加すると推定される。 (5)住環境への効果 昭和37年と平成15年の航空写真の比較により、複数箇所において家屋が増加していることが確認された。 航空写真を基に、増加家屋数を確認したところ、約50戸の家屋数の増加が確認された。</p>
<p>国土交通省四国地方整備局編「吉野川総合水系環境整備事業(西村・中鳥、加茂第一)(事後評価)」(平成23年度第5回事業評価監視委員会資料、2012年)、13-14頁</p>	<p>西村・中鳥箇所水辺の楽校、加茂第一箇所水辺の楽校 ①西村・中鳥箇所水辺の楽校 2)完成後確認された事業効果 ・整備された吉野川や中鳥川では、NPO指導によるカヌー体験や市民参加による自然観察会等の環境学習の交流拠点として利用されている。 ・当箇所の豊富な竹を使用した炭焼き・竹トンボ作り体験など、自然と人が共生する持続可能な社会づくりを考える場として利用されている。 ②加茂第一箇所水辺の楽校 2)完成後確認された事業効果 ・多目的広場や水辺空間において、各種スポーツ大会等による人と人とのふれあいの場として利用されている。 ・生物観察会などの環境学習や各種イベントが実施され、子供たちの可能性発見の場として利用されている。 ・竹細工作り体験等により子供達に伝え、教えることから楽しみと生きがいが育まれる場として利用されている。</p>

河川2 戦後の吉野川改修工事(徳島県)

資料名	ストック効果に関する記述
<p>国土交通省四国地方整備局編「吉野川床上浸水対策特別緊急事業(飯尾川)(事後評価)」(平成25年度第5回事業評価監視委員会資料、2014年)、12頁</p>	<p>吉野川床上浸水対策特別緊急事業(飯尾川) 5.1 完成後確認された事業効果 完成以後も、事業着手前に床上浸水が発生していた規模の降雨が発生している。しかし、角ノ瀬排水機場等の効果により床上浸水被害が軽減されている。 平成23年台風15号洪水における岩津地点下流の流域平均2日雨量は、平成16年10月洪水の雨量と同規模であったが、飯尾川流域全体における浸水被害は浸水家屋数が約7割減少するなど大幅に減少した。</p>
<p>国土交通省四国地方整備局編「那賀川床上浸水対策特別緊急事業(桑野川左岸)(事後評価)」(平成25年度第5回事業評価監視委員会資料、2014年)、13頁</p>	<p>那賀川床上浸水対策特別緊急事業(桑野川左岸) 5.1 完成後確認された事業効果 事業の完了後、平成22年4月には、床上特緊急事業の着手以前には床上浸水が発生していた規模の降雨が発生している。しかし、排水機場による内水排除や引堤による桑野川の河積拡大の効果により、床上浸水被害は防止された。 平成22年4月洪水による浸水戸数は、同等規模の雨量・流量であった平成10年5月洪水(126戸)、平成16年10月洪水(46戸)と比べて0戸と減少した。また大原観測所の水位は、平成10年5月洪水と比べて約60cm低くなった。</p>
<p>国土交通省四国地方整備局編「吉野川床上浸水対策特別緊急事業(桑村川)(事後評価)」(平成26年度第3回事業評価監視委員会資料、2014年)、17頁</p>	<p>吉野川床上浸水対策特別緊急事業(桑村川) 5.1 完成後確認された事業効果 平成21年の川島排水機場完成後、内水安全度1/10規模相当を上回る降雨が発生しているが、川島排水機場の運用により桑村川流域における浸水被害が大幅に軽減されている。平成23年台風15号洪水では、浸水家屋数が約7割減少し、平成26年台風11号では、浸水家屋数が約8割減少するなどの効果が確認された。 また、本事業の実施を契機に、吉野川市においても自治体が主体となった内水対策(水害展の開催による意識啓発、WEBカメラによる情報収集・配信、ハザードマップの作成・配布等)を展開し、水害に強い町づくりを推進している。</p>
<p>建設省四国地方建設局編「吉野川水系熊谷川排水機場増設事業について」(平成11年度第3回事業評価監視委員会資料、2000年)、7頁</p>	<p>熊谷川排水機場増設事業 1)5m³/s排水ポンプ増設による効果 ポンプ増設直後の平成5年8月洪水では、浸水面積7.6ha、浸水深22cm、浸水時間7時間の軽減。 これにより、高畑地区の老人ホームが、周辺低地の浸水による孤立化を免れた。</p>
<p>四国の建設のあゆみ編纂委員会編「四国の建設のあゆみ」(四国建設弘済会、1990年)、530-531頁</p>	<p>吉野川の河川環境整備事業 (中略) 河川公園の利用状況としては、市民の運動広場として四季を問わず一年中利用されており、54年10月から「阿波吉野川マラソン大会」及び58年から「四国の川を考える会」主催のファミリーハゼ釣り大会などが、年中行事として開催されている状況で、年々盛況になっており、徳島市民はもちろん県民の健康づくりの場として大いに役立っている。</p>

河川2 戦後の吉野川改修工事(徳島県)

資料名	ストック効果に関する記述
土木学会四国支部編「四国に豊かさと潤いをもたらした土木事業」(四国建設弘済会、1995年)、62頁	<p>吉野川改修 (中略)</p> <p>徳島平野を中心とする吉野川流域の今日の発展をもたらしたのは、吉野川の洪水を制御するため、営々と治水事業を行ってきた、土木技術者達の努力の賜物である。時代の変遷とともに、吉野川流域の姿は移り変わり、治水事業に求められるものも微妙に変化してきているが、いつの時代でも人々の安全で豊かな生活への希求に変わりはない。</p>
土木学会中国四国支部編「土木へのいざない」(土木学会中国四国支部、1991年)、93頁	<p>二代目新町樋門</p> <p>洪水防御、舟運の確保、浄化用水の導入口という3つの重要な役割をもった新町樋門も、70年余の風雪にさらされ、老朽化が著しくなりました。</p> <p>このため、昭和61年度から樋門の改築事業が行われ、平成3年3月に二代目新町樋門が完成しました。二代目新町樋門は、その外観に、初代の優雅さを残すため、表面はレンガタイルを用いた化粧張りにし、ゲートもアーチ型の断面形を残した2門としています。</p> <p>今後、水上交通の発展などが予想される中、新町樋門は、新町川の入り口の顔として、ますます重要な施設となっています。</p>